



社会福祉法人ゆうゆう
GUIDEBOOK 2023



「ひとりの想い」を文化にする。



社会福祉法人ゆうゆう

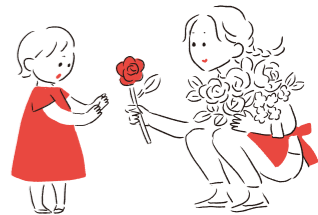
〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70番地18

Tel:0133-22-2896 Fax:0133-23-0811

E-mail: info@yu-yu.or.jp Web:https://yu-yu.or.jp/



「ひとりの想い」を文化にする。



私たちはこれまで「ひとりのニーズからしか生まれない」という実践を大切にしてきました。

人口減少や超少子高齢化社会など時代が変容していくなかで、ともすると、

「ひとりの想い」がおろそかになってくるかもしれません。

私たちは、そうした時代だからこそ、「ひとりの想い」を大切にすることから始まる

福祉実践を展開し、人間の新しい価値観の創造を目指します。



そして、「ひとりの想い」から始まる福祉実践を

これからもあたりまえに存在する「文化」にします。





Mission

「いちにち」にこだわり、 「いちにち」を編む

私たちは、日常をひとつひとつ丁寧に積み上げていく「いちにち」にこだわります。

「いちにち」を地域社会にわたらせる視点に立ち、「いちにち」「いちにち」で培われるケアやノウハウを活かし、「ありたい社会」づくりに寄与します。

「ありたい社会」とは何かを問い、仲間と語ることを大切にします。

地域を創るを再考する。

私たちには、ゆうゆうを設立したときから大切にしてきた想いがあります。「地域を創る」ということです。

ゆうゆうの実践は、当別町に始まり、江別市、それから東京大学のキャンパス、昨年からは苫小牧市、そして今年度は和寒町で持続可能なまちづくりをサポートする事業へと広がっています。

子どもたちや高齢者、障害者の暮らしを支えることに専門職として取り組みながら、私たちはそれぞれの地域にどのように貢献できるのかを問い、行動することが求められています。すなわち、ハコモノで福祉事業を実施するにとどまらないソーシャルアクションを起こしていくことが、ゆうゆうらしさと言えます。

新型コロナウイルス対策は節目を迎えました。まだまだ油断はできませんが、この3年間、利用者やご家族、さまざまな関係者の皆様に多大なご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。そして何より自分が感染する怖さと向き合いながら、日々を支えたスタッフたちには心から最大限の敬意を表します。

自粛や制限のなかで暮らしを支えてきた私たちは、もう一度「地域を創る」ということを考え、行動を起こしていきたいと思えます。地域でのさまざまなイベントやお祭り、特別な機会ではなく誰かとの会合に身を置いてみると、コロナ前の暮らしに戻ったというよりも、新たな心地よさがあります。取り戻していくのではなく、地域にあった文化や営みをもう一度捉え直し、自分たちにできることを考え、入り込んでいくことが重要であると思えます。

世界の情勢はまだまだ不安定であり、暮らしを支える私たちにとっては、難局とも言える状況が続いています。また、人口減少はますます加速する一方で、深刻で急速な落下を目の前に、不安はつきまっています。

自分や大切な人たちの暮らしを良くしていくために、専門職である前にひとりの人として、ちょっとしたことでも構わないから、地域のなかで勇気を持って行動した結果、生まれた繋がりがや結集が「地域を創っていく」ことになると思えます。

ひとりの人として、ひとりの人と向き合っていく。

私たちは「専門職」という言葉を盾に地域のなかに飛び込むことに躊躇してはならないと思うわけです。



Action

「私で」ではなく、 「私たち」でおりなす

「おりなす」とは、様々なことを組み合わせて描きだすことを意味します。私たちは、組織や領域、分野のみならず、福祉や地域を超えた実践をおりなしていきます。「私」だけではなく、「私たち」でつくる最善のアプローチを常に意識し追求します。



社会福祉法人 ゆうゆう 理事長

大原 裕介

平成15年に北海道医療大学ボランティアセンターを設立し、学生による任意事業の障害児預かりサービスや0歳から96歳までの生活支援サービス等を3年間実施する。卒業後、NPO法人当別町青少年活動センターゆうゆう24(現在「社会福祉法人ゆうゆう」)を起業。人口減少時代における、あらゆる住民がそれぞれの立場を超えた支え合いによる福祉的実践を構築する共生型事業や国内外のオールブリュット事業の発信、民間活力を活用した社会的事業の研究など社会に必要とされる実践を創り続ける。また、北海道医療大学の理事 評議員 客員教授を務め、福祉現場の魅力を伝え後進者を育成するほか、一般社団法人FACE to FUKUSHI共同代表として様々な政策の提言にも関わる。

プロジェクト

「福祉を福祉で完結しない」「ないものはつくる」ということを想い、社会課題に果敢にチャレンジする事業、新たな人間の価値観を創造し、普遍的に地域社会の文化を構築する実践。

PICK UP

和寒町ふくしのまちづくりプロジェクト

和寒町「福祉のまちづくり基本構想」および「中核となる福祉施設の基本計画」策定業務を受託することとなりました。3000人の小さなまちで高齢化率は45%です。老朽化した特別養護老人ホーム建て替えに伴う、持続可能な福祉のまちづくりについて提案するものです。人口減少が著しく、特養が老朽化している課題は和寒町に限ったことではありません。私たちは、和寒町の町民の皆様とともに今後の自治のあり方について研究し、行動していくことは、ゆうゆうが現在取り組んでいる事業にもたらす効果も含め、大きなインパクトを与えていくものと考えています。

また、このプロジェクトは、大麻銀座商店街の店舗等の改修に尽力いただいた一級建築士事務所teco株式会社と協働運営体を組織化し、これからの福祉建築のあり方にも踏み込んでいきます。



子ども第三の居場所事業

子どもたちが未来への希望を持ち、これからの社会を生き抜くために必要な力を育むために、学校でも家庭でもない「だい3のいばしょ」を、苫小牧市東開文化交流サロンで今年度から運営しています。小学校低学年の子どもを主な対象とし、「地域が子どもたちを支え、子どもたちが地域を元気にする」をコンセプトに、学習支援、生活習慣の形成、食事や豊かな体験の提供などを行います。サロンではこれまでも、イベントを通じた多世代交流の試行や、隣接する土地を借りた菜園づくりなど、地域の中であらゆる人同士が関わり合い、子どもたちを見守り育む機会づくりを行ってきました。今後も、未来を担う子どもを中心にしたまちづくりを展開していきます。



芸術文化活動普及支援事業

ゆうゆうでは、豊かな表現力と可能性を秘めた障がいのある人の表現活動を推進するために様々な事業に取り組んでいます。2015年に障がい者の芸術活動支援を目的とした「北海道アールブリュットネットワーク協議会」を福祉団体や弁護士、学芸員や大学教員らとともに設立し、道内各地で支援に取り組む事業所や人材をつなげてきました。現在、厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」の北海道・北東北ブロック広域センターとして展覧会や舞台発表会、人材育成、情報発信など支援センターのサポートを行っているほか、自治体や企業などとも連携して取り組みの輪を広げています。



福祉サービス

子どもから高齢者、障がい者や生活困窮者など地域社会のなかで生きづらさや様々な困難を抱えた人々に対する質の高いケアを追求する、障害者総合支援法など制度に基づく多岐にわたる実践。

事業の種類

社会福祉事業

■ 障害福祉サービス事業

障がいのある方や特定疾患のある方が地域のなかで生活を続けていけるよう支援する。就労継続支援A型／就労継続支援B型／生活介護／共同生活援助／短期入所／居宅介護／重度訪問介護／行動援護



■ 障害児通所支援事業

未就学児を対象とした児童発達支援、就学児の放課後等デイサービスを行う。



■ 地域生活支援事業

障がい者(児)が自立した日常生活・社会生活を営むことができるよう、一時的に事業所で見守り・活動の場を提供し支援を行うほか、外出及び余暇活動等のためヘルパーを派遣し、必要となる介助及び介護を提供する。移動支援事業／日中一時支援事業

■ 障害児相談支援事業

障がい児が障害児通所支援を利用する前に障害児支援利用計画を作成し、通所支援開始後、一定期間ごとにモニタリング等を行う。

■ 一般相談支援事業

基本相談支援に加え、障がい者支援施設や病院等に入所・入院している方が、地域生活へ移行するための支援。また、居宅において単身で生活している方等の常時の連絡体制の確保や緊急時の支援。

■ 特定相談支援事業

基本相談支援に加え、サービス事業者等との連絡調整の上、サービス等利用計画の作成を行い、一定期間ごとにモニタリングを行う。

■ 居宅介護支援事業

介護を必要とされる方が自宅で適切にサービスを利用できるように、ケアマネジャー(介護支援専門員)が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿ったケアプランの作成や、ケアプランに位置づけたサービスを提供する事業所等との連絡・調整などを行う。

■ 老人居宅介護等事業

身体上または精神上の障がいがあるため日常生活を営むのに支障がある高齢者の方に対し、自宅で入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活に関する相談・助言などの支援を行う。

公益事業

■ 子どもの学習・生活支援事業

子どもたちが健やかに育成される環境を整備するため、学習支援や子どもへの居場所の提供等を行う。

■ 子育て援助活動支援事業(ファミリーサポートセンター事業)

乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する方と当該援助を行うことを希望する方との相互援助活動に関する連絡、調整を行う。

■ 地域生活サポーター事業

介護保険制度や障害者総合支援法などの公的サービスに該当しない、生活における困りごとのサポートを希望する方と当該援助を行うことを希望する方との相互援助活動に関する連絡、調整を行う。

当別町の拠点

「困ったときはお互いさま」そんな思いを支え、つないでいく。

ゆうゆうの原点でもある当別町。人口減少が徐々に進む状況でも、自然と住民同士が支え合い、住民が主体となって地域を創り、活躍していけるよう9の拠点同士が協力し合い、ニーズにつないでいきます。

1 ゆうゆう本部／amaririsu／ヘルパーステーションajisai

〒061-0231 石狩郡当別町六軒町70-18 TEL 0133-22-2896



amaririsuは、障がいや様々な理由により困り感を抱えているお子さんを対象に、将来の地域生活を見据えて一人ひとりに合わせたサポートをしています。事業所内だけでなく、公共施設を利用したり地域行事に参加するなど、地域資源を活用しながら社会経験を積んでいき、お子さんの可能性を広げています。ヘルパーステーションajisaiは障がい児者・高齢者の住まいの場に職員を派遣し、食事・入浴・排泄等の支援やひとりでは外出が難しい方に必要なサポートを行っています。

2 共同生活援助事業所ゆうゆうのいえ

〒061-3776 石狩郡当別町太美町1488-280

ゆうゆうのいえは各個室に風呂・トイレを完備した共同生活住居。遮音設計、光量調整など行動特性の強い利用者に配慮した造りになっています。KIYOSEマンションは、地域で老朽化が進んでいるアパートを障がいのある方々の多機能型グループホームとしてリフォームしました。用途は「ユニット型」「個別支援型」「ショートステイタイプ」の3タイプ。地域とのつながりを大切に、町内会で開催されるお祭り、花火大会等の地域イベントに参加し、地域住民として楽しく過ごせるよう支援を行なっています。



4 当別町共生型コミュニティー農園 ぺこぺこのはたけ

〒061-3776 石狩郡当別町太美町1481-6 TEL 0133-27-6440



近隣地域はもちろん札幌圏の方にも愛されるレストランぺこぺこのはたけ。野布瀬農園で栽培したお米と、併設している農園で採れた野菜を使ったランチを提供しています。厨房や農園では、調理師や農業の専門家と一緒に障がいのある方が働いています。ぺこぺこのはたけは、地域の方が誰もが集い活躍できる場としても活用されています。地域の高齢者有志「サポートクラブぺこちゃん」が、地域の子どもたちを楽しませるために隔月でイベントを行うなど、地域住民同士の交流が創出されています。



5 生活介護事業所によきによき

〒061-0208 石狩郡当別町弁華別429

弁華別地区の廃校を利用し、成人期の障がい者における生活・余暇・就労活動をサポートしています。北海道らしさ、当別らしさを感じられる自然豊かな環境に在ります。福祉農園としては日本最大級の面積を誇る「Social Care Farm 野布瀬農園」を利用者の就労活動の場として、基幹産業発展の一端を担います。その他、アート活動やイベント提供を通した、息抜きや自己表現の機会も特色です。



6 渋谷ダブルツールカフェ北海道医療大学店

〒061-0293 石狩郡当別町金沢1757 中央講義棟10階

ダブルツールカフェは原宿を中心に名古屋・仙台に展開する本格シアトルコーヒーが人気のカフェで、北海道医療大学店は北海道第一号店であり、ダブルツールで障がいのある方が働く第一号店です。大学内のカフェであることから、学生や教職員の人たちにとって身近な存在になれることを目指しています。また障がいのある方が仕事をすることはもちろんですが、それをみんなにカッコよく見せることができるか、愛されるかを常に追求しています。



8 当別町共生型地域福祉ターミナル 当別町ファミリー・サポートセンター

〒061-0223 石狩郡当別町弥生1091-6
TEL 0133-25-5137(ターミナル)、TEL 0133-22-2886(ファミサポ)



ターミナルは子ども、高齢者、障がい者など、年齢や障がいの種別を超えた「地域住民の交流」を図り、「困ったときはお互いさま」の精神で地域福祉を支えるさまざまな住民のボランティア活動情報を集積し、推進するための拠点です。2023年からは「学習支援」としての機能も加わりました。

9 Social Care Farm 野布瀬農園 ユニバーサル就労

〒061-0208 石狩郡当別町弁華別63-3



弁華別地区の離農された方の農地を利用し、地域の基幹産業である農業の振興や利用者の工賃向上を目指し、2019年4月より新規就労支援場所として開園しました。「生活介護事業所によきによき」や「生活介護事業所よるのにじ」の利用者などが就労しており、大自然の広大な畑で、生き生きと楽しみながら専門的農業に挑戦しています。ユニバーサル就労は若年性認知症の方、障がいのある方、地域ボランティアなど、様々な人の「働きたい」という想いを実現する場です。仲間同士協力しながら、ともに働いています。

7 当別町共生型地域オープンサロンGarden 当別町障がい者総合相談支援センターnanakamado 居宅介護支援事業所ハナミズキ 就労継続支援A型事業所U-Garden

〒061-0223 石狩郡当別町弥生51-38
TEL 0133-23-1917(nanakamado)、TEL 0133-22-0015(ハナミズキ)



地域住民ひとりひとりが活躍し、主体的にまちづくりに参画していく場としてのGarden。「就労支援」に加えて「相談支援」を新たに付加した接点として、2020年夏に再スタートしました。これからも、町内にお住まいの方が加齢や病気、障がい、その他地域で生活しづらいと感じた時の相談をケアマネージャーや相談支援専門員がお受けするとともに、共生型の拠点として、「困ったときはお互いさま」、あらゆる住民同士の自然な支えあいの風景を創っていきます。就労継続支援A型事業所U-Gardenは「育てるA型」を目指して、事業所だけにとどまらず障がいのある方が将来的に地域で働くことを見据えた支援を行っています。研究調査に係るデータ打ち込みのパソコン業務や清掃業務、当別の法人拠点(グループホーム、就労)への給食業務など、それぞれの能力に応じた業務の提供を行っています。

江別市の拠点

ワクワクが集う商店街と一緒に、人と人との交流の風景を創ります。

江別市・大麻地区。レトロで个性的なお店が立ち並びさまざまな人が行き交う商店街やその周辺で、地域の人々と協力して子どもから成人期までの豊かな過ごしへの支援に取り組んでいきます。



わたなベストア／ 放課後等デイサービスセンターkaede

〒069-0852 江別市大麻東町13-4
TEL 011-378-4230

わたなベストアはパブリックスペースとして地域住民に開放し、ワークショップや憩いの場として活用する事で、商店街に人々が行き交う風景を創り出しています。

kaedeは将来の生活を見据えてお仕事・お買い物など様々な社会体験の機会を提供しています。江別市内の大学に通う学生アルバイトや地元の主婦など、さまざまな視点をもつ支援チームで協力しながら、子ども一人ひとりのことを考えた生活をみんなで創りあげていきます。



Pâtisserie Ruelle／生活介護事業所よるのにじ

〒069-0852 江別市大麻東町13-35
TEL 011-376-0644

2019年7月にお菓子屋さん「Pâtisserie Ruelle」がオープンしました。「Ruelle」とは、フランス語で「小道・路地」という意味で、大麻銀座商店街の小道・路地に行き交う人たちの幸せに満ちた笑顔で溢れることを願い名付けられています。福祉サービスの支援者や利用者といった福祉に関わる人だけに留まらず、地元の主婦や大学生、地元のパティシエ、著名なアーティストのジャケットも担うデザイナー等、多彩な方々により創られています。



Social Apartment 大麻こぼと

〒069-0864 江別市大麻泉町50-31
TEL 011-802-8107

Social Apartment 大麻こぼとは、2019年8月にオープンしたグループホームです。建物は大きく「パブリックスペース」「男性棟」「女性棟」から成り立っており、パブリックスペースでは利用者が男女関係なく食事がとれる場所となっているほか、地域住民の方がママ会や自治会役員会、学生の勉強などご利用できるように、小上がりやカウンター、土間スペースもある作りとなっています(要予約制)。今後とも入居されている方の生活をしっかりと見守りながら、同時に入居者と地域住民が自然と交流できるような拠点づくりを目指していきます。



苫小牧市の拠点

苫小牧市東開文化交流サロン

〒059-1301 苫小牧市東開町2丁目12-22
TEL 0144-84-7956

図書機能と福祉拠点機能を兼ね備える、苫小牧市の公共施設では初となる共生型地域福祉拠点「苫小牧市東開文化交流サロン」が2022年12月1日にオープンしました。図書の専門企業との共同事業体「Social Library Platform 東開町」を結成し指定管理業者として選定を受け、ゆうゆうはここで共生型福祉の実践知を生かした地域づくりと文化との出会いづくりを行っています。図書館・ギャラリーやカフェ、多世代の「学び」の機会など、サロンの有する魅力的な機能を活かしながら、就労継続支援事業や「子ども第三の居場所」の運営、地域住民の方との連携、協働を進め、多様な方の活躍の場をつくりだし、サロンに来る人同士の「交流」をデザインしていきます。「多様性」の中に身を置くことが当たり前になる中で、他者に寛容になれる人とまちづくりを推進します。



東京都の拠点

北海道の米と汁 U-gohan 東大正門

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学 本郷キャンパス 工学部11号館2階

2021年2月1日、東京大学本郷キャンパス工学部11号館2階に「北海道の米と汁 U-gohan東大正門」がオープンしました。お店では、Social Care Farm野布瀬農園で手塩にかけて育ててきたお米や、季節の野菜をふんだんに使って、毎日日替わりでお弁当を提供しています。また東大構内で行われるたくさんのイベントにもケータリングや会議弁当も、ご予算に合わせて提供しています。お店は、建築家隈研吾氏が設計を手掛ける「HASE-KO-KUMAHALL」ラウンジ内にあり、店舗の設計も隈研吾氏が手がけています。お店で購入したお弁当はお店の隣の2階ラウンジにてお召し上がりいただけます。(ホールが予約の場合は不可の場合もありますのでお問い合わせください。)



2022

ゆうゆうの1年間の取り組み



1 森と人をつなぐ

森の中に入って木にかこまれると、何か気持ちが良かったり、なぜか安心したり、そんな気持ちになった経験はないでしょうか。ゆうゆうでは、2022年度よりSocial Care woods野布瀬の森をスタートし、森で仕事をしたり、森で遊んだり、薪や山菜をとったり、森と人をつなぐ取り組みをはじめます。

この森での林業は、大型機械を使う「大きな林業」ではなく、自然に生えてくる木を大切に育てながら、100年200年を超える森を育てていく自伐型林業という「小さな林業」です。森を木材としてのみ捉えるのではなく、森の楽しみ方、森の価値をこれからたくさんの人と実感していきたいと思います。秋には、子どもたちと森で遊ぶイベントを予定しています。



2 組織マネジメント体制の構築

当別町及び江別市を中心に事業を展開して20年もの時間が経過しました。20年という時間は、利用者の方々の状態や暮らしの背景、ニーズが変化していくのと同じように、職員のそれらもまた変化していきました。これから先も様々な状況にある職員が増えようとも、「ひとりのニーズ」に持続的に応える法人であるために、「ゆうゆうで働いて良かった」と実感できる組織マネジメントの構築を法人の中期ビジョンに掲げ、推進しているところです。令和5年度からは、新たに2つの取り組みを導入することになりました。各部署の経営及び運営の強化による持続可能な組織を構築するため、経営管理層である各部長を8名任命。また、職位ごとに求める能力や役割を明確にし、期待する基準に沿って、職員一人一人が取り組んだ事の評価を給与に反映できるような人事考課制度と新たな給与制度を導入しました。



職員数

(2023年3月31日現在)

正職員

60名

準職員

158名

有資格者数状況

(2023年3月31日現在 正職員のみ)

職種	人数(単位:人)	職種	人数(単位:人)
社会福祉士	22	初任者研修修了	36
介護福祉士	9	実務者研修修了	4
精神保健福祉士	4	学校教員	4
作業療法士	2	幼稚園教諭一種	1
介護支援専門員	3	学芸員	2
栄養士	1	製菓衛生士	1
保育士	4	調理師	2

新規学生等採用状況

一般社団法人Face to FUKUSHI主催の福祉就職フェア「FUKUSHI meets!On-line(東日本・関東・関西エリア)」への出展や就職情報サイトへの掲載、オファー型就活サイトを活用しました。コロナの感染状況に合わせ、オンラインと対面を使い分けながら、単独説明会・選考面接を実施し、学生の不安に寄り添いながらフォロー体制にも力を入れました。

●新卒者
説明会参加者 **80**名

●2023年4月入職新規学卒者の採用状況

- 就労ケア部 兼 企画推進部 兼 人事部 労務部
生活介護事業所によきよき生活支援員、調査研究事業担当
(立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 卒業)
- 就労ケア部
生活介護事業所よのけに生活支援員
(大阪芸術大学芸術学部芸術計画学科 卒業)

●2023年入職中途採用者の状況

- こども支援部 放課後等デイサービスセンターkaede 児童指導員
(札幌学院大学人文学部人間科学科 卒業/社会福祉法人ゆうゆう準職員)
- 地域生活支援部 共同生活援助事業所ゆうゆうのいえ 生活支援員
(札幌医療リハビリ専門学校 卒業/社会福祉法人ゆうゆう準職員)
- 若小牧事業部 若小牧市東開文化交流サロン 子ども第三の居場所担当
(玉川大学教育学部通信教育課程 卒業/石狩管内小学校教員)
- 企画推進部 当別町障がい者総合相談支援センターnanakamado担当、調査研究事業担当
(日本社会事業大学 卒業/札幌市内精神科病院ソーシャルワーカー)

離職率

1年間の正職員離職率

4.9%

研修の参加状況

年間参加者数

337名

事業活動計算書

(自)2022年4月1日 (至)2023年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)		
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	13,548,569	19,098,146	
		就労支援事業収益	39,894,131	31,631,379	
		障害福祉サービス等事業収益	578,367,237	699,794,161	
		その他の事業収益	46,287,167	85,384,328	
		U-gohan事業収益	10,232,355	3,037,636	
	費用	経常経費寄附金収益	2,582,403	1,138,118	
		その他の収益	12,918,280	8,153,560	
		サービス活動収益計(1)	703,830,142	848,237,328	
		人件費	460,797,946	580,949,191	
		事業費	68,581,514	65,009,967	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	収益	事務費	91,298,805	121,602,581	
		就労支援事業費用	45,209,822	35,814,053	
		減価償却費	30,728,085	34,421,015	
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 2,843,584	△ 2,602,765	
		サービス活動費用計(2)	693,772,588	835,194,042	
	費用	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	10,057,554	13,043,286	
		収益	受取利息配当金収益	752	1,537
			その他のサービス活動外収益	678,991	1,124,190
		費用	サービス活動外収益計(4)	679,743	1,125,727
			支払利息	4,021,445	4,237,011
その他のサービス活動外費用	519,016		1,004		
サービス活動増減差額(6)=(4)-(5)	サービス活動外費用計(5)	4,540,461	4,238,015		
	サービス活動増減差額(6)=(4)-(5)	△ 3,860,718	△ 3,112,288		
経常増減差額(7)=(3)+(6)		6,196,836	9,930,998		
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	500,000	1,560,000	
		固定資産売却益		81,081	
		事業区分間繰入金収益	△ 106,386		
		拠点区分間繰入金収益	57,300,713	28,019,009	
		サービス区分間繰入金収益	169,387	715,199	
	費用	事業区分間固定資産移管収益		4,517,488	
		拠点区分間固定資産移管収益		1,262,030	
		サービス区分間固定資産移管収益		582,017	
		特別収益計(8)	57,863,714	36,736,824	
		固定資産売却損・処分損	4	1	
費用	国庫補助金等特別積立金積立額	500,000			
	事業区分間繰入金費用	△ 106,386			
	拠点区分間繰入金費用	57,300,713	28,019,009		
	サービス区分間繰入金費用	169,387	715,199		
	事業区分間固定資産移管費用		4,517,488		
	拠点区分間固定資産移管費用		1,262,030		
	サービス区分間固定資産移管費用		582,017		
	その他の特別損失	3,457,424	4,680,462		
	特別費用計(9)	61,321,142	39,776,206		
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 3,457,428	△ 3,039,382			
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		2,739,408	6,891,616		
増減差額の部	繰越活動	前期繰越活動増減差額(12)	11,581,465	4,689,849	
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	14,320,873	11,581,465	
		基本金取崩額(14)			
		その他の積立金取崩額(15)			
		その他の積立金積立額(16)			
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	14,320,873	11,581,465	

中期 Vision (2022-2024年度)



「この時代から逃げない」を実現するためにスタッフ、チーム、組織の力を高める

福祉領域は、複雑化かつ困難性を伴うニーズが顕在化し増大し、果たすべき役割が大きくなる一方、担い手となる福祉従事者は慢性的な人材不足に陥っています。このままでは、多くのニーズを少ないリソースで応えていく合理的な福祉が展開されることが懸念されます。ゆうゆうが理念として掲げる「ひとりの想いを文化にする」が問われる時代を迎えることを意味します。

目の前にある困りごとや生き辛さに真摯に向き合い、手を差し伸べる。自分たちの力だけでは応えることができないときには、色々な人と協働して、できる最善を尽くす。私たちは、このシンプルな営みを更新し続けたいと思います。



そのためには、これまでの営みを想起しながら私たちが果たすべきニーズを定めつつ、しっかりと力を蓄えていく3年間にします。そして、来るべきあらゆるニーズに応えるために謙虚に実直にひとりひとりの想いを大切にしていきます。



ひとりひとりの想いを大切に プロフェッショナルなソーシャルアクションの実現

- ① ケアの専門性を向上させるための研究・研修システムの体系化
- ② 地域包括ケアシステムの確立
- ③ 重層的支援体制構築に向けた研究と実践
- ④ 民間資本を活用した地域福祉推進モデルの研究と実践
- ⑤ 障害者等の芸術文化活動の推進

ゆうゆうで働いて良かったと 実感できる組織マネジメントの構築

- ① ひとりひとりの責務の明確化と力が発揮できる組織ガバナンスの確立
- ② 人事考課制度・人材育成研修を導入することによるキャリアアップの推進
- ③ 多様な生活者としての職員の働きやすい職場への確立
- ④ IOT 導入等による業務改善の推進
- ⑤ 効率的且つ効果的な組織運営のための会議体・プロジェクトチームの体系化

福祉的経営の安定化と持続可能な経営の確立

- ① 持続可能な福祉経営のための経営分析と財政基盤の安定化
- ② 公益事業、就労支援事業、収益事業の経営戦略の継続的検証と実行
- ③ 緊急性もしくは必要性と経営的整合性を有する投資を伴う新規事業の計画的実施
- ④ 各事業部・事業所の経営的視点の醸成と実行

福祉の仕事をした人を生み出し、 多様な人材が持続的に確保されるシステムの構築

- ① 新卒・第2新卒採用者が持続的に確保されるための魅力発信
- ② 多様なキャリアを有している中途採用者の人材確保戦略
- ③ ゆうゆうで培った力を地域社会に還元する循環型の人材確保戦略
- ④ リアルに迫る福祉教育の普及とカリキュラム化
- ⑤ あらゆる地域住民が地域福祉の担い手となるためのシステム構築

2023年度社会福祉法人ゆうゆう基本方針

(一部抜粋)

これまで実施してきた事業、さらなる発展を目指す事業、事業の方向性を検討する事業、新たに実施される事業など、それぞれの事業は異なる立ち位置を持ち、個性的でもあります。部門がそれぞれの独自性を持った経営を展開していることを目指しています。私たちは、これらを実現するための人材育成を重視しじっくりと時流を捉えながらしっかりと事業を推進していきます。

当別町における事業の継続実施と事業ビジョンの形成

江別市における重度障害児者地域包括ケアシステム構想の実行

苫小牧市における既存事業の新たな価値創造と子どもの居場所支援の実行及び新たな事業の検討

岩見沢市における障害者の芸術文化推進事業の推進と今後の方針の検討と提案

北海道の新たな自治体での事業展開による地域福祉の推進

階層ごとの研修体系とカリキュラムの構築

新たな人事考課制度本格的導入とコミュニケーションの活性化

持続可能な福祉経営のための経営分析と財政基盤の安定化に向けた事業の検証と実行

効率的且つ効果的な組織運営のための会議体・プロジェクトチームの体系化と実行

就労支援事業、収益事業の経営的戦略の協議と実行

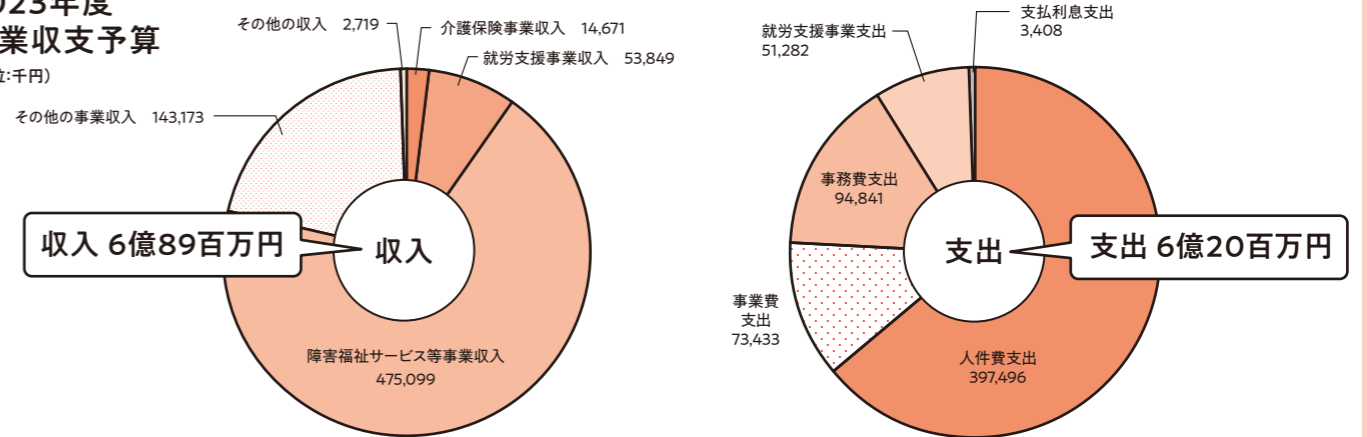
福祉の仕事をした人を生み出し、多様な人材が確保されるシステム構築

民間資本活用した寄付活動のブラッシュアップと実行

COVID-19の継続的対策の実施とBCP計画のブラッシュアップ(再掲)

2023年度 事業収支予算

(単位:千円)



History

沿革

2003 当別町の商店街に北海道医療大学のボランティアセンターを設立*1
障がい児のレスパイトサービス開始とともに、0歳から96歳までの地域住民の困り事をサポート
文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定される



*1



*2

2005 NPO 法人当別町青少年活動センターゆうゆう24を設立

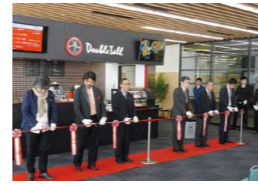
2006 当別町ノーマライゼーションセンターによきによきの創設
江別市に新たな拠点kaedeの創設
当別町障害者相談支援事業の受託
当別町ファミリー・サポートセンター事業の受託

2007 財政破綻後の夕張市で活動開始

2008 当別町共生型地域福祉ターミナルの創設*2
当別町共生型地域オープンサロンGardenの創設



*3



*4

2010 江別市共生型地域複合サロンよるのにじの創設

2011 NPO法人ゆうゆうに名称変更
当別町共生型コミュニティー農園 ベこべこのはたけの創設*3

2012 ゆうゆうのいえの創設 夕張支部が一般社団法人取得により独立

2013 NPO法人ノーマライゼーションセンターによきによきに名称変更
社会福祉法人ゆうゆうを設立

2014 北海道医療大学にダブルトルカフェを運営*4
KIYOSEマンションの創設
Garden、よるのにじを社会福祉法人ゆうゆうへ事業移行



*5



*6

2015 業務を社会福祉法人ゆうゆうに統合
厚生労働省の「障害者の芸術活動支援モデル事業」が採択される

2016 廃校になった(旧)弁華別小・中学校の利活用者として選定される
北海道医療大学との間に包括連携協定を締結

2017 品川区立品川児童学園・品川区立品川児童学園分室の運営

2018 江別市大麻銀座商店街内に、わたなべストアの創設*5

2019 Social Care Farm野布瀬農園の創設
江別市大麻銀座商店街内に、Patisserie Ruelleがオープン
江別市大麻泉町にSocial Apartment 大麻こぼとがオープン*6
品川区立障害児者総合支援施設がオープン



*7

2020 国立大学法人東京大学工学部11号館2階に北海道の米と汁 U-gohan 東大正門がオープン*7
就労継続支援A型事業所 U-Gardenの設立

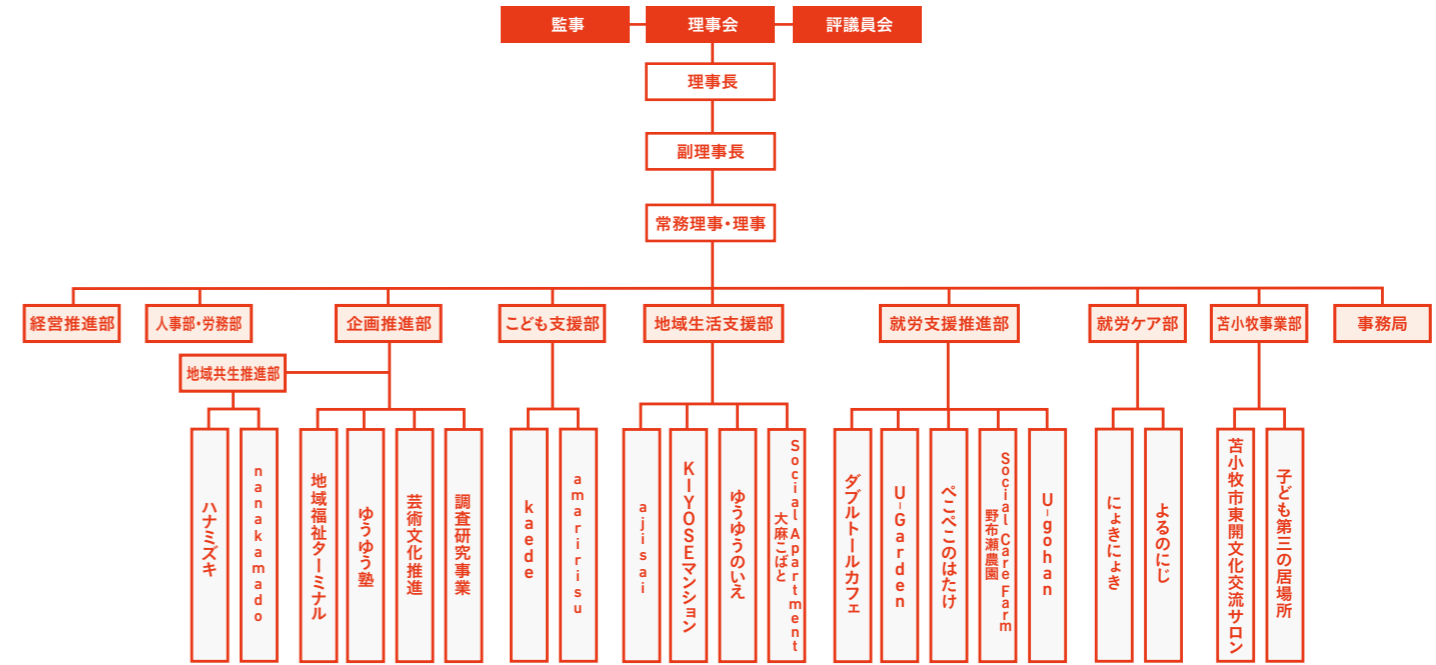
2021 Social Care woods 野布瀬の森創設

2022 苫小牧市東開文化交流サロンの運営
苫小牧市多機能型事業所東開町2丁目の設立



Organization

組織図



Officer

役員・評議員名簿

社会福祉法人ゆうゆう役員名簿

任期 自 2023年6月13日 至 2025年6月定時評議員会終結の時まで

理事長	大原 裕 介	社会福祉法人ゆうゆう
副理事長	小西 力	社会福祉法人ゆうゆう
理事	新井 和 也	社会福祉法人ゆうゆう
理事	河崎 裕 二	社会福祉法人ゆうゆう
理事	飯田 大 輔	社会福祉法人福祉楽団理事長
理事	櫻井 香 里	株式会社銀座ライス代表取締役
監事	馬場 拓 也	社会福祉法人愛川舜寿会理事長
監事	高村 俊 行	監査法人ナカチ代表社員

社会福祉法人ゆうゆう評議員名簿

任期 自 2021年6月23日 至 2025年6月定時評議員会終結の時まで

評議員	横井 壽 之	社会福祉事業の学識経験者
評議員	泉 亭 俊 徳	地域(当別町)の代表者
評議員	八島 壯 之	地域(江別市)の代表者
評議員	内海 太 郎	地域(当別町)の代表者
評議員	小林 正 伸	社会福祉事業の学識経験者
評議員	目黒 敏 弘	地域(当別町)の代表者
評議員	岸本 佳 廣	地域(江別市)の代表者
評議員	石田 清 太 郎	地域(当別町)の代表者及びその他(農業の見識者)
評議員	小林 泰 雄	地域(当別町)の代表者
評議員	石田 武 史	地域(江別市)の代表者





Donation

ご寄付について



ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。

超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を

大切にす福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

How to

ご寄付の方法

ご寄付の方法

① クレジットカードまたは銀行振込の場合

社会福祉法人ゆうゆう寄付専用WEBサイトから、クレジットカードまたは銀行振込でお申し込みいただけます。

<https://yu-yu.or.jp/donation/>

銀行振り込みの場合は、下記の口座あてでも受け付けております。

北海道銀行 当別支店 普通 0698945 フクユウユウ



② 郵便局の場合 ③ 現金の場合 ④ その他

このリーフレットに同封されている払込取扱票をご使用ください。担当者にお気軽にご相談ください。その後の流れをご説明いたします。物品・不動産等によるご寄付のご支援をいただけます場合は、担当者までお気軽にご連絡下さい。

ご寄付に関するお問い合わせはこちらから kifu@yu-yu.or.jp (担当:河崎) お気軽にご連絡ください

ご寄付いただいた方へ

1 野布瀬農園で収穫したお米をお送りします

10,000円以上のご寄付をいただいた方には、当法人で運営していますSocial Care Farm野布瀬農園で作ったお米「ななつぼし」10kgを返礼品として進呈いたします。



2 税制上の優遇措置があります

2022年4月より、税額控除対象法人となりました。当法人への寄付につきましては、税額控除(寄付金特別控除)または寄付金控除(所得控除)のどちらかを受けることができます。

個人の方	寄付額が2,000円を超える場合は、確定申告を受けることで税制上の優遇措置を受けることができます。
法人の場合	一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠で特別損金算入が可能となります。

※寄付の手続きや税制優遇についてはお気軽に担当者までご相談ください。

領収書について

寄付金控除を受けるにあたり、所得控除の場合は当法人が発行する「寄付金」の但し書きのある『領収書』が、税額控除の場合は『領収書』に加え「税額控除に係る証明書」が必要となりますので、領収書等は大切に保管して下さい。

TEL:0133-22-2896 <https://yu-yu.or.jp/contact/>



● 2022年度寄付数 **38**件 ● 2022年度寄付額 **2,582,403**円

皆様から賜りました寄付金や物品は、担い手の育成やインフォーマルな仕組みづくり、地域の文化を継承する取り組み等に活用させていただきます。心より感謝申し上げます。

税額控除対象法人の決定について

この度、皆さまから頂いた多大なるご厚志のお陰で、2022年度より税額控除対象法人となりました。今後も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

Credo

クレド

1 人を大切にします

私たちは関わるすべての人を思い、その人たちが喜ぶことを考え行動を起こします。



2 ケアにこだわります

私たちの仕事のベースはケアにあることを誇りに思い、質の高いケアを追求し、自分とチームを磨きます。

3 自らが動きます

気づいた自分から率先して責任を持った行動を起こします。自ら動き出すことが自分を変えることだと信じます。



4 なぜを考えます

今起きていることが正しいのか、常に問い続け、最善の方法を考えます。



5 とにかくやってみます

まわりにバカなことだと笑われても、無駄だと言われたとしても、既成概念にとらわれずチャレンジします。

6 流されるのではなく、流れをつくります

誰かの意見や考えに流されるのではなく、自分が正しいと思う新しい流れをつくります。

